



今こそ「一隅を照らせ」  
コロナ禍の被災者を救え!!

※注1

『3年間にも及びコロナ禍（災害）の影響を受けて「生活に困窮」している市民を助けるため、早急に実態調査を行うべき』『それは奈良市行政にしかできない最も重要な使命』  
令和5年3月定例会の一般質問で意見を述べました。

令和5年度奈良市一般会計  
予算の規模と特色

財政難が叫ばれるなか、予算額は前年度より113億円も増えて1500億円です。過去最大規模となっています。「未来投資型予算」と銘打たれた今年度当初予算の主要な施策項目には49事業（予算総額…63億円）が挙がっています。

しかしながら、その中で福祉事業は1事業（予算額…115万円）です。コロナ禍の影響を勘案した生活困窮対策事業はありません。未来への投資も必要ですが、今困っている市民に寄り添うことはさらに重要なことと考えます。すぐにでも、市民の生活実態の調査をするべきです。

令和5年度当初予算（案）主要な施策項目（奈良市）より

未来投資型予算



奈良市の未来を担う子育て世代や若者への支援を行うとともに、  
新たな創造や変革で社会課題を解決する取り組みに重点を置き、編成しました。

<b>I</b>	<b>II</b>	<b>III</b>	<b>IV</b>	<b>V</b>
<p>子どもの成長を応援するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心して子どもを産み育てることができるまち</li> <li>子どもの権利が尊重され安全に暮らすまち</li> <li>多様な学びの場を整備し、子ども一人一人の個性が発揮できるまち</li> </ul>	<p>学生・若者が活躍するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲ある学生が様々な選択ができ、活躍できるまち</li> <li>様々な分野や世代の人が交流し、イノベーションを起こすまち</li> </ul>	<p>脱炭素社会の実現と人にやさしいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゼロカーボン戦略を推進するまち</li> <li>あらゆる人にやさしいまち</li> </ul>	<p>DXで暮らしをアップデートするまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DXで市民生活をより便利で快適にするまち</li> <li>DXで観光産業を活性化するまち</li> </ul>	<p>新しい価値を生み出すまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい社会の仕組みづくりに挑戦するまち</li> <li>国内外の人々から愛されるまち</li> </ul>

※注1  
令和2年6月定例会の一般質問で「政治家のあるべき理想像」を問われた際の仲川市長の答弁録

「市長としてのあるべき姿」ということにつきましては、これから先の町や人々の暮らしの姿のビジョンをしっかりと示すということに、まずはつとめたいと思います。もう一つ申し上げるならば、やはり「一隅を照らす」ということであると思っております。

私自身、社会活動をしばらくしていたこともございまして、やはり行政ではしっかりと光が当て切れていない部分が社会にはたくさんあるように思っております。その辺りにしっかりとアンテナを張り、光を隅々まで照らしていくことがあるべき姿だと、私は考えております。





# 3月定例会議案採決前の討論で述べた 3つの意見（発言録の抜粋）

## 1. 高齢者を対象とした施策について

コロナ災害の3年間で人とのつながりを失った高齢者、例えば、新型コロナウイルスへの感染が怖くてデイサービスの利用をやめた人、地域活動への参加をやめた人がいます。そのことが原因で、認知症や要介護状態が一気に進んだ人、フレイルになった人のいることがわかっています。一人暮らしで近所付き合いがなく、頼れる知人や親戚のいない人は、今、どのように生活しておられるでしょうか。

## 2. 生活困窮対策について

「第2期奈良市子どもの豊かな未来応援プラン」の策定に先立ってアンケート調査が行われました。全世帯における相対的貧困率が17.1%であるのに対し、ひとり親世帯の場合は56.1%でした。計画ではひとり親世帯に対する支援の充実が謳われています。

アンケート調査の数ヶ月後にウクライナで戦争が起これば、その影響で生活必需品の価格の高騰が始まり、今もなお続

ています。電気料金、ガス料金が大幅に上がっています。今すぐ、現実的な方法で、ひとり親世帯の生活状況の確認などの働きかけが必要だと考えます。

## 3. 施策を実現するための仕組みづくり

一般質問の際に、市長は主要な施策項目は市民向けに作ったから、わかりやすくまとめたと言われました。

私は市民向けだからこそ、仕組の要のひとつである「市民の参画・市民との協働」を主要な施策項目に位置づけて、その重要性を示すべきだったと思います。全庁を挙げて、「市民の参画・市民との協働」の仕組づくりに全力で取り組むことを示し、パートナーである市民の協力を呼びかけるべきだったと思います。

その一方で、奈良市自治連合会からは、認識している2つの重点課題を解決するため、奈良市行政に対して、地域への参画・協働の呼びかけがあります。

- ①自治会加入率の減少、自治連合会加入自治会減少
- ②役員のみならず手不足が深刻な状況

※役員のみならず手不足は他の地縁団体に共通する課題です。

第5次総合計画全体の土台とされている、しくみづくりの施策のもう一方に「行政改革の推進」があります。そして、令和5年度予算案に行財政改革支援業務委託として2千万円が計上されています。

「市民の参画」「市民との協働」についても必要な予算を用意して、今の社会に合わせた新たな仕組と体制を再構築する時期が来ています。なぜなら、様々な行政計画を策定する際に行われた統計調査、意識調査の結果からは、「市民参画及び協働によるまちづくり条例」のできた14年前と比べて、地域社会が大きく変容していることがわかるからです。

高齢者施策及び生活困窮対策の第一段階となる実態調査は、短期集中型の事業です。「市民の参画・市民との協働」の仕組づくり、体制づくりは奈良市の未来にとって大変重要な取組です。短期から中長期の視点を持って、切れ目なく積み重ねる必要があります。

いずれの取組も、今すぐに着手することが望まれます。

「ふれあい支えあいのまちづくり」に向けた日々の主な活動はこちら



奈良市議会議員無所属  
**山出てつじ**  
プロフィール

ホームページ、フェイスブックで活動状況更新中!

<https://yamade.net/>

<https://www.facebook.com/yamadenet/>



奈良市に生まれ育って63年、社会福祉士・防災士・まちづくり歴24年です。飛鳥小・春日中・奈良高・関学大で学びました。旅行会社で営業マンをしていた38歳の時、1冊の本「体験ルポ 世界の高齢者福祉」との出会いから福祉の世界へ。以来「ふれあい、支えあいのまちづくり」を一生の事業と定め「地域福祉の推進」等に取り組んでいます。

【活動団体・所属団体】  
特定非営利活動法人あうんの会（法人後見）／けんりようご・ねっと奈良  
認知症の人と家族の会／奈良公園ゴミゼロプロジェクト実行委員会  
フードバンク奈良／全国災害ボランティア支援団体ネットワーク  
日本地域福祉学会／日本災害復興学会／地区防災計画学会  
六条地区（社協／自治連合／自主防／まち協準備会／学童安全／地推協）